

「平成 24 年度ぎょさい推進全国大会～復興祈念～」を岩手県で開催

去る 7 月 5 日（木）、震災からの水産業の復興を祈念するとともに、漁業の経営を守る「ぎょさい制度」及び「漁業収入安定対策事業」の必要性を周知することを目的として、岩手県盛岡市の「ホテル東日本盛岡」において、全国 18 道府県の漁業者・漁協役職員をはじめ総勢 114 名の参加のもと、「平成 24 年度ぎょさい推進全国会議～復興祈念～」を開催しました。

会議は、本会川端会長の主催者挨拶に続き、水産庁長畠漁業保険管理官、岩手県水産技術センター井ノ口所長及び岩手県漁連大井会長の来賓挨拶を頂いた後、「ぎょさいの現況と漁業収入安定対策」と題した基調報告を本会猪苗代専務が行い、引き続き以下の講演へと進みました。



◇ 「震災後の現況報告」 ◇

唐丹町漁業協同組合 代表理事組合長 上村 勝利 氏

最初に、岩手県唐丹町漁協上村組合長より「震災後の現況報告」として、3 月 11 日、津波が押し寄せる中で組合長自身が漁協事務所の 2 階から裏の土手に飛び降り高台まで逃げ延びた状況やその時の町の無残な光景、一夜明けてから、震災により甚大な被害を受けた地区の再建に向け、漁協が先頭に立って道路の整備・水道の確保といったインフラの復旧や養殖施設の整備や漁船の修繕など奮闘されてきた体験談を述べて頂きました。

そのうえで「迅速に支払われた共済金が漁家経営の復旧やわかめ・こんぶ養殖業の

着業資金として大いに役立った。ぎょさいに加入していなかったら漁家の経営は大変な事態に追い込まれていた。」と今回の震災に対してぎょさいの果たした役割を述べられました。

さらに、県や市などの行政と漁協が一体となって「ぎょさい」加入を強く指導してきたことを紹介し、「加入に際しては、これまで釜石市と漁協で掛金の助成を行ってきた。とりわけ市の果たした役割は大きく、市町村の掛金助成が重要」と強調するとともに、「漁業経営安定のためには漁協が中心となって、ぎょさいと積立ぶらすのより一層の加入推進に取り組むことが肝要である。」「今回の災害を体験し、万が一の備えには組合員の相互救済の精神を基調としたぎょさい制度しかない。」として、「ぎょさいへの全加入を実現して協同組合による組合員の相互救済の強固なる体制を作ろうではありませんか。」と呼び掛け、講演を結んで頂きました。【講演の詳細は漁済連 HP の「ご加入者の声」(<http://www.gyosai.or.jp/katsudo/voice.html>) をご覧下さい】

次に、東京大学社会科学研究所加瀬教授より、「漁業の将来展望と自然産業性への配慮」として、若年層漁業者の確保と漁協の責務という視点から漁業の将来展望や自然に対する責務についての特別講演を頂きました。

加瀬教授は、若年漁業者を増やすための 3 つのポイントに、①「サラリーマン並みの条件が保証され、後継者になるかどうかを真剣に考え始める時期に経済や精神の安定などのメリットを分かりやすく示すことが必要」、②「組合員子弟以外の漁業参入希望者の受け入れ体制の整備が必要」、③「所得安定化がきわめて重要」をあげ、年による所得変動が一次産業を敬遠する理由となっていることを解説し、その対処策の一つとして、ぎょさいが有効であると提言されました。



◇ 特別講演「漁業の将来展望と自然産業性への配慮」 ◇

東京大学 社会科学研究所 加瀬 和俊 氏

また、漁協の責務については「漁協は、あらゆる漁村に組織され、行政や漁業共済なども含めて、漁業にかかわる事務を担っている。今後、漁村の中核組織としてさらに発展させることが重要。」と実務機関としての役割を改めて示されるとともに、「漁協には漁場を有効活用し、資源管理しながら最大限の水揚げを確保し、消費者に安定供給する責務があると思う。権利と責務を果たすために、漁協の理念を重視し、食料供給の担い手として今後の後継者問題も見据えて行く必要があるだろう。」との意見を述べられました。若年層の参入には、所得の

安定などにもつながる漁業共済制度を挙げ、「共済の役割は新たな位置づけを与られてもいいと思う。」と講演を結んで頂きました。

翌7月6日（金）には65名が参加し、宮古市の田老地区（田老町漁協）等を訪問する被災地視察を行いました。田老町漁協では、「万里の長城」とも呼ばれた高さ10メートルの防潮堤に上り、家の土台だけが残る360度の風景を参加者一同真剣な表情で眺め、宮古市観光協会の「震災語り部」の方から、被災状況についての説明を受けました。

防潮堤のすぐ下に位置する家屋の土台だけが残る景色、震災前の写真とはまったく違う景色を前に「改めて津波被害のすごさを感じる」「地元の防災意識の向上にもつなげたい」など、海で働く関係者（仲間）としては他人事ではないなどの感想が聞かれました。

また、復興支援に少しでも協力出来ればとの思いから、参加者は田老町漁協で被災後に生産されたワカメを購入しました。**【生産商品は田老町漁協のホームページ (<http://www.masaki-wakame.com/>) をご参照下さい。】**

今回の会議の開催にあたり、震災後の大変な中で岩手県庁・漁協系統をあげた温かい受け入れにより、目的を達成する会議となりましたこと、関係者の皆様に心からお礼を申し上げるとともに、被災地の水産業の1日も早い復興とさらなる前進を祈念いたします。

◇宮古市の田老地区（田老町漁協）等の被災地視察の様子◇

